

## 第2次山都町総合計画アンケート調査結果

### ■調査概要

#### ①目的

「山都町総合計画」を町民の意向を踏まえた計画を策定するため、本アンケート調査を通じて、町政に対する考え方や意見を聞き、今後のまちづくりの方向性や諸課題への対応を検討することを目的に実施しました。

#### ②調査対象

山都町民：2,000名

#### ③調査票の配布・回収方法

郵送配布・郵送回収により実施

#### ④調査期間

平成25年10～11月に実施

#### ⑤サンプル数

配布数：2,000名、回答数：807名、回収率：40.4%

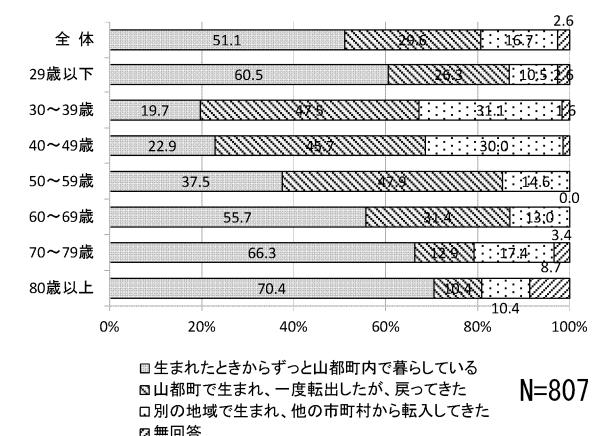
#### ⑥留意事項

表中、グラフ中の構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しており、そのため、各選択肢の構成比の合計が100%にならない場合があります。

### ■居住の履歴

「生まれたときからずっと山都町内で暮らしている」と答えた方が多いのは、「80歳以上」で70.4%、「山都町で生まれ、一度転出したが、戻ってきた」と答えた方が多いのは、「50～59歳」で47.9%、「別の地域で生まれ、他の市町村から転入してきた」と答えた方が多いのは、「30～39歳」で31.1%となっています。

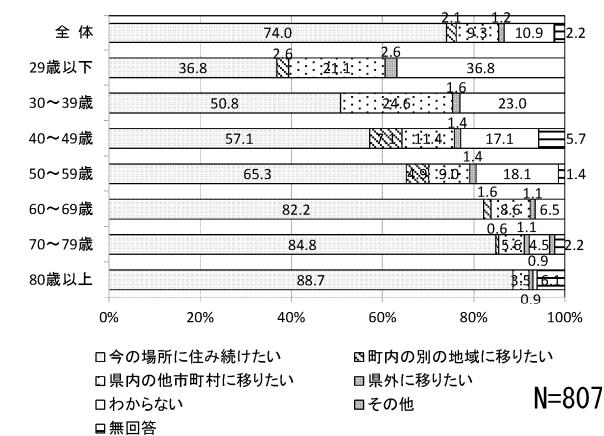
山都町に暮らしている30歳～60歳は、半数以上が、一度は、「山都町以外」で暮らした経験があります。中でも30歳～50歳では、5割近くの方がリターン者、3割の方が、1ターン者となっています。



### ■山都町への居住意向

「今の場所に住み続けたい」と回答をされている方が多いのは、「80歳以上」で88.7%、「町内の別の地域に移りたい」「県内の他市町村に移りたい」「県外に移りたい」と回答をされている方が多いのは、「30～39歳」で26.2%となっています。

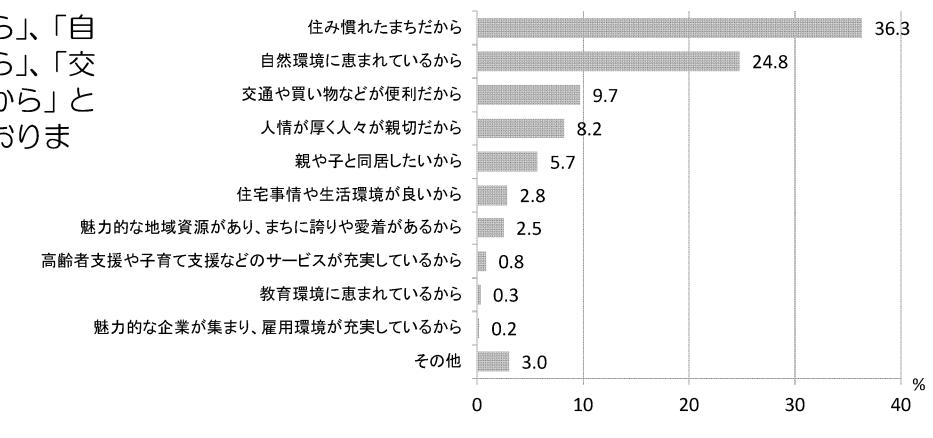
年齢が若くなるに従って、「山都町に住み続けたい」と考えている方が少なくなっています。特に40歳以下の年齢層でその比率が半分以下となっています。他の地域に移りたい方の中でも、遠く離れたところに移るのではなく、熊本県内という比較的近場に住みたいと考えている人が多くなっています。



### ■「山都町に住み続けたい」理由

最も多いのは、「住み慣れたまちだから」で36.3%、2番目に多いのは、「自然環境に恵まれているから」で24.8%、3番目に多いのは、「交通や買い物などが便利だから」で9.7%となっています。

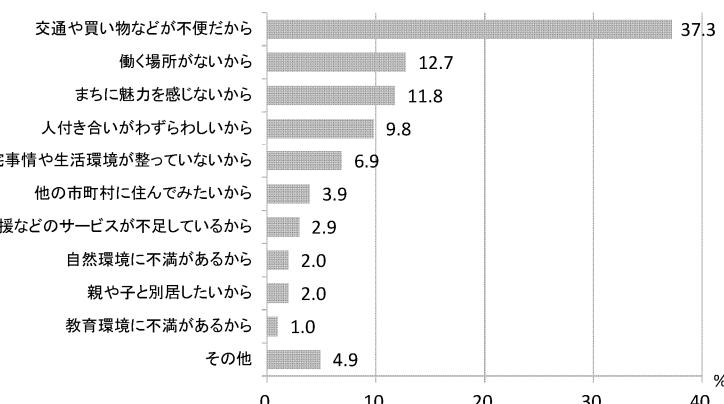
「住み慣れたまちだから」、「自然環境に恵まれているから」、「交通や買い物などが便利だから」という回答が大半を占めております。



### ■「山都町以外に住みたい」理由

最も多いのは、「交通や買い物が不便だから」で37.3%、2番目に多いのは、「働く場所がないから」で12.7%、3番目に多いのは、「まちに魅力を感じないから」で11.8%となっています。

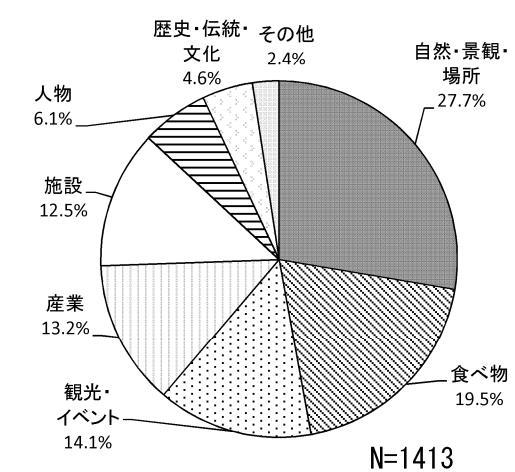
「交通や買い物等が不便だから」との回答が大半を占めています。しかし、「山都町に住み続けたい」理由でも回答数が多いことからも、居住地によって状況が大きく異なっているものと思われます。



### ■山都町が発信すべき地域資源

最も多いのは、「自然・景観・場所」で27.7%、2番目に多いのは、「食べ物」で19.5%、3番目に多いのは、「観光・イベント」で14.1%となっています。「自然・景観・場所」では、通潤橋と蘇陽峡、「食べ物」では、野菜と米、「観光・イベント」では、八朔祭をあげる方が多くなっています。

山都町に「住み続けたい」という理由の中で最も上位となっていた「自然・景観・場所」と答えた方が多くなっています。今後、特に若もののか人口流出の防止や1ターン者を増やすためにも山都町の大自然や通潤橋の魅力をいかに発信していくかが重要となるものと思われます。

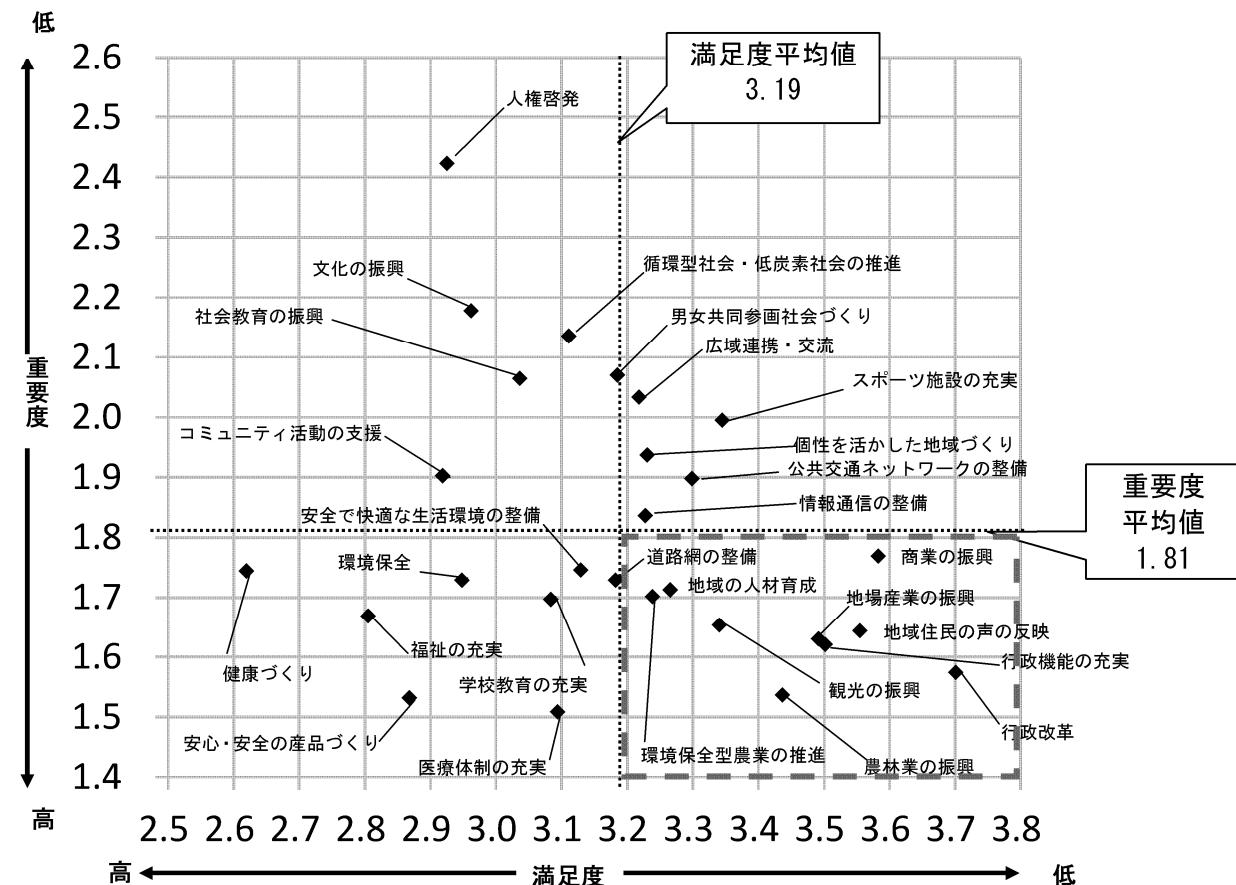


## 第2次山都町総合計画アンケート調査結果

### ■山都町で暮らすうえでの現在の「満足度」、今後の「重要度」

重点的な推進が必要であると思われる「満足度」が平均以下、「重要度」が平均以上の項目は、「行政機能の充実」「行政改革」「地場産業の振興」「商業の振興」「農林業の振興」「観光の振興」「地域住民の声の反映」「地域の人材育成」「環境保全型農業の推進」となっています。

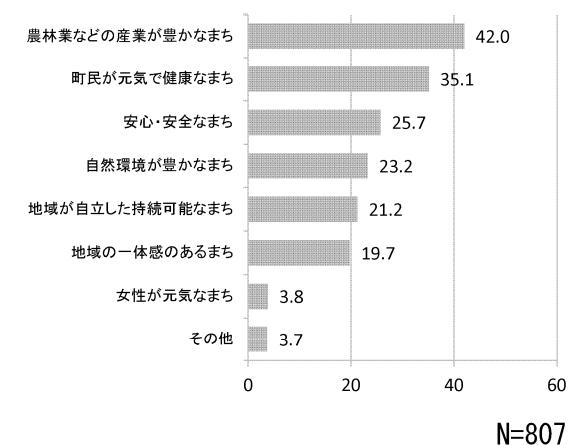
重点的に改善すべき項目として、「行政機能の充実」や「行政改革」といった行政面と「地場産業の振興」や「商業の振興」など産業面に関する項目が挙げられます。



### ■山都町の将来像として重要なこと

最も多いのは、「農林業などの産業が豊かなまち」で42.0%、2番目に多いのは、「町民が元気で健康新まち」で35.1%、3番目に多いのは、「安心・安全なまち」で25.7%となっています。

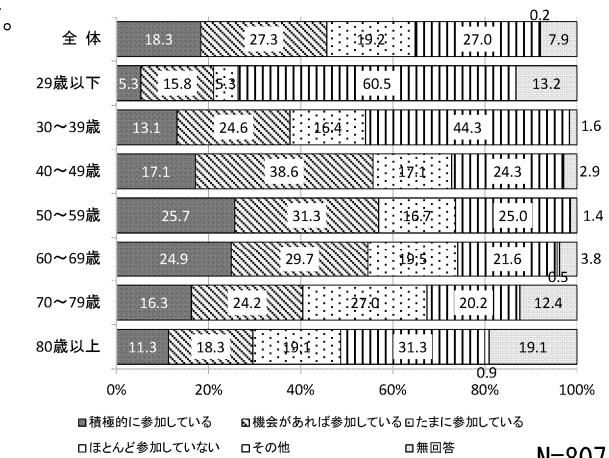
「山都町に住み続けたい」理由の中でも、今後山都町が発信していくべき地域資源でも上位に挙げられていた「自然環境」を守り育てていくための産業を育成していくことが重要視されています。「農林業などの産業が豊かなまち」との回答が多いことからも、単に「自然環境」の豊かさだけでなく、それを活かして地域外に売り出していくことが重要と思われます。また、「健康づくり」が住民の満足度において最も高くなっていますが、今後、重要なこととして挙げられています。



### ■自治振興区の活動への参加

「積極的に参加している」と答えた方が多いのは、「50~59歳」で25.7%、「機会があれば参加している」と答えた方多いのは、「40~49歳」で38.6%、「ほとんど参加していない」と答えた方多いのは、「29歳以下」で、60.5%となっています。

60歳までは、年齢が高くなるに連れて、地域活動への積極度が高くなっていることが伺えます。29歳以下の若者は、その大半が地域活動にほとんど参加しないか、全く参加したことありません。

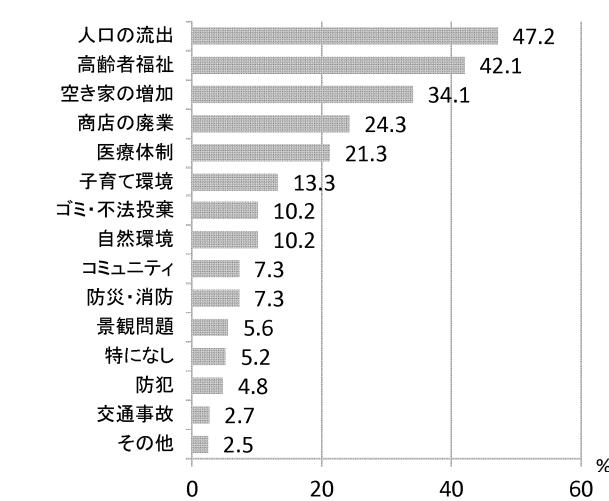


### ■住まわれている自治振興区での課題

最も多いのは、「人口の流出」で47.2%、2番目に多いのは、「高齢者福祉」で42.1%、3番目に多いのは、「空き家の増加」で34.1%となっています。

課題として多く挙げられているのは、「人口の流出」、「高齢者福祉」とそれらに関連する「空き家の増加」となっています。

特に、「人口の流出」に関して、山都町では「U・Iターン者」が多いことからも、流出を防ぐことと同時に、「いかに外に出ていった人を呼び戻すことができるか」が重要になってくると思われます。



### ■自治振興区での地域づくりでの課題

最も多いのは、「担い手の高齢化」で49.3%、2番目に多いのは、「担い手不足」で34.1%、3番目に多いのは、「特定の人たちへの負荷集中」で30.0%となっています。

地域づくりでは若者の力が重要と思われますが、「担い手の高齢化」や「担い手不足」が上位となっています。現在、若者の自治振興区の活動の参加率が低いことからも、まず、そうした活動に参加してもらうための工夫や施策を行う必要があると思われます。

